

## 中山 新士 氏 学位審査結果の要旨

主査：権 雅憲

副査：上野 博夫、木梨 達雄

慢性膵炎は、進行すると膵外分泌・内分泌機能の低下を伴う病態であるがアルコールのみで発症機序を説明することは困難である。申請者らは、アルコールとリポポリサッカライド (LPS) の反復投与により膵炎を発症する実験モデルを確立し、膵炎発症における自然免疫・獲得免疫の関与を検討した。アルコール単独投与では野生型マウスに膵炎は発症しなかったが、LPS単独ないしアルコールとLPS併用投与により膵炎が発症した。併用群では線維化や炎症性サイトカインも他の群と比較して高値を示し、好中球浸潤やCD4・CD8T細胞、B細胞の浸潤が認められた。また、免疫不全 (SCID) マウスにアルコールとLPSを併用投与しても膵炎は発症しなかったが、脾細胞、CD4/8T細胞を移入して免疫系を再構築したSCIDマウスでは膵炎が発症した。本研究は、アルコール性膵炎の発症・進展には自然免疫系に加えて獲得免疫系が重要な役割を果たしていることを示し、学位に値すると判断した。